

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1・2年後期	1・2	2	選択
担当教員			
釧持 麻衣・青島 加奈			
添付ファイル			

講義概要	事業活動や市民生活はさまざまな形で環境に負荷を及ぼし、高度経済成長期には水俣病をはじめとする四大公害病を引き起こした。現在も、気候変動や海洋プラスチックごみ、空き家、化学物質リスクといった、多様な環境問題に社会は直面している。 本講義では、環境リスクに対応する法や気候変動問題などを具体例として用いながら、環境法政策の基礎的な知識や考え方の習得を図るとともに、気候変動のメカニズム等を学び、脱炭素アクションを考える。		
授業計画	1	ガイダンス、環境法とは（担当教員：釧持 麻衣） ・授業の進め方や評価方法等を説明する。 ・第8回までで取り上げる「環境法」を概観する（AL①）。 ・環境法政策の対象となる環境問題について、AL②を行う。 準備学習：社会が直面してきた、または、現在直面している環境問題を考える。	
	2	公害問題と環境法の誕生（担当教員：釧持 麻衣） ・環境問題の原点である公害問題とそれをきっかけに誕生・発展した環境法について、AL①を行う。 ・四大公害病について、AL②を行う。 準備学習：四大公害病について調べる。	
	3	政策ツールとしての法（担当教員：釧持 麻衣） ・第1回小テスト ・環境問題を解決するための法の機能について、AL①を行う。 準備学習：第1・2回授業の内容を復習する。	
	4	公害防止のための法（担当教員：釧持 麻衣） ・第1回小テストの解説 ・水質汚濁防止法や大気汚染防止法がどのように公害防止を図っているかについて、AL①を行う。 準備学習：指定された法令を調べる。	
	5	環境リスクに対応する法（担当教員：釧持 麻衣） ・第2回小テスト ・環境リスクに対応する法として、化学物質審査規制法や土壌汚染対策法がどのような仕組みになっているかについて、AL①を行う。 準備学習：1) 第3・4回授業の内容を復習する。 2) 指定された法令を調べる。	
	6	まちづくりに関する法（担当教員：釧持 麻衣） ・第2回小テストの解説 ・街づくりに関する法として、景観法や環境影響評価法がどのような仕組みになっているかについて、AL①を行う。 準備学習：指定された法令を調べる。	
	7	環境紛争と訴訟等（担当教員：釧持 麻衣） ・第3回小テスト ・環境紛争を解決するための訴訟等の仕組みについて、AL①を行う。 準備学習：第5・6回授業の内容を復習する。	
	8	最近の環境法と訴訟（担当教員：釧持 麻衣） ・第3回小テストの解説 ・熱海市土石流災害をきっかけに制定された盛土規制法など、最近の環境問題に関する法律や訴訟について、AL①を行う。 準備学習：環境問題に関する最近のニュースを調べる。	
	9	後半ガイダンス、気候変動について（担当教員：青島 加奈） ・後半7回の授業の進め方や評価方法等を説明（確認）する。 ・第15回までの各回のテーマを概観する。 ・気候変動について（メカニズム・温室効果ガス・影響等）、AL①②を行う。 準備学習：気候変動の影響に関連する2024・2025年のニュースを調べる。	
	10	気候変動に関する国内外動向（担当教員：青島 加奈） ・IPCC・COP・カーボンニュートラルなどのキーワードや国内外（地域・市民発アクション含）動向について、AL①を行う。 準備学習：気候変動対策に関連する2024・2025年のニュースを調べる。	
	11	気候変動の緩和策と適応策（担当教員：青島 加奈） ・第4回小テスト ・第4回小テスト解説 ・緩和策・適応策の位置づけを説明し、具体的適応策について、AL①を行う。 準備学習：第9・10回授業内容を復習する。	

	12 気候変動適応策ワークショップ（担当教員：青島 加奈） ・気候変動適応計画7分野のうち選択した分野について、AL②を行う。 ・気候変動適応学習教材（カードゲーム）を使用し、AL⑥を行う。 準備学習：気候変動の影響が、自分や周囲にどのような影響を及ぼしているか、今後及ぼす可能性があるか考える。 13 気候変動のリスクとチャンス、企業の脱炭素経営（担当教員：青島 加奈） ・企業の脱炭素化（基本的ステップや事例含む）について、AL①を行う。 準備学習（課題）：興味のある企業の脱炭素アクション事例についての小レポート（項目を第12回で提示）。 14 再生可能エネルギートレンド・グリーンテック（担当教員：青島 加奈） ・再生可能エネルギーに関連する系統・データ等について、AL①を行う。 ・事前学習で調べた例を口頭発表（紹介）する（AL②）。 ・静岡大学カーボンニュートラル推進チーム動画「静大発！カーボンニュートラル研究最前線」視聴。 準備学習：静岡県内企業のユニークな脱/低炭素化技術事例を調べる。 15 気候変動緩和策×SDGsアクション（担当教員：青島 加奈） ・衣・食・住（家電・住宅・車・消費エネルギー）に関する緩和策について、SDGsの観点から（エンカル消費・COOL CHOICE等含む）AL①を行う。 ・自宅の電気使用量からCO2排出量（または使用削減量）を概算する。 準備学習：自宅の電気使用量と金額（最低1カ月分・可能であれば複数月分、または前年同月使用量も）を調べる。
授業形態	レジュメ等を用いた講義を中心とする。 アクティブラーニング：①14回、②5回、③0回、④0回、⑤0回、⑥1回
達成目標	1. 環境問題を解決するうえで法政策が果たす役割を説明できる。（基礎） 2. 環境法の仕組みが理解できる。（標準） 3. 気候変動についてその仕組み・影響・対策について系統立てて把握・理解できる。（標準） 4. 自分や周囲、就職後（企業や地域で果たす役割）の脱炭素アクションについてイメージし、可能なものから行動に移す（行動変容）ことができる。（応用）
評価方法・フィードバック	・グループワーク（25%）、複数回の小テスト（10%×4回）、小レポート（10%×1回）、リアクションペーパー（25%）の割合で総合評価する。 ・小テスト、レポートについては、毎回採点后返却し、結果をフィードバックする。
評価基準	秀（1～4）：90点以上、優（1～3）：80～89点、良（1～2）：70～79点、可（1）：60～69点、不可：59点以下 カッコ（ ）内は、達成目標の項目を示す。
教科書・参考書	なし
履修条件	なし
履修上の注意	・原則として、隔週にて2コマ連続で実施する。 ・講義には必ず出席すること。また、他の者の迷惑になるので私語は厳禁する。
準備学習と課題の内容	・初回までにシラバスを読み、授業の目的や内容を理解しておくこと。 ・授業計画中に記載されている「準備学習」の内容（1.5時間）を必ず行うこと。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解：50%、思考・判断：20%、関心・意欲：10%、態度10%、技能・表現10%